年　組　名前

# 道新でワークシート

## 五輪メダルケースに採用

# 木材加工「津別の誇り」

東京五輪メダルケースに自社製品が採用されて喜ぶ山上専務（手前左）や社員たち

【津別】東京五輪メダルのケースにオホーツク管内津別町の家具メーカー「山上木工」（山上裕靖社長）の木製ケースが採用され、社員や町民らが喜んでいる。林業で知られるマチだけに町民たちは「津別の誇りになる」と話す。

「会社を守ってきた祖父や現社長の父、そして地域の皆さんの力で採用を勝ち取った」。同社の山上裕一朗専務(35)は、メダル発表翌日の25日、感無量の様子で話した。

山上木工は1950年創業。最新鋭の工作機械を導入する一方、手作業を担う熟練職人もおり、木材の特殊加工のほか、オリジナルブランドの椅子を製作している。採用された木製ケースは円形で直径12センチ、厚さ6センチ。道産タモ材を加工し、藍色に塗装した。本体と磁力でくっつくふたを開けてメダルを収容。ケースは立つようになっており、メダルを飾ることができる。

同社は自社の技術力を試したいと、何度か一緒に仕事をした千葉県のデザイナー吉田真也さん(35)と組んで昨秋、五輪の大会組織委員会によるメダルケース募集に応募。コンピューター制御の加工機械でケース内の溝を0・1ミリ単位で削り、試作品は100個を超えたという。

津別町は面積の86%が森林で林業が盛ん。佐藤多一町長は「木のまちの評価を高めてくれた」と喜ぶ。北見信金の武永大輔・津別支店長は「零細企業が世界の舞台に打って出る。これは町工場の活躍を描いた人気小説『下町ロケット』の津別版だ。地元経済の起爆剤になれば」と期待する。

（阿部誠）

２０１９年７月２６日（金）朝刊　全道版　３２ページ（記事は再編集しています）

①東京２０２０オリンピックメダルのケースに採用（さいよう）されたのは、どのようなケースですか。

②あなたの住む地域（ちいき）の特色を生かして、東京２０２０オリンピックをサポートするグッズを考えましょう。